

平成29年度 学校経営方針

文京区立根津小学校
校長 中根 こずえ

1 学校経営の基本

○文京区の教育ビジョン

「個が輝き共に生きる」

- ・心身ともに健やかで自他を尊重する
- ・自ら学び考え、表現し行動する
- ・社会の一員として広い視野をもち、日本の将来を担う
- ・地域を愛し、共に生きる

○根津小学校の基本理念

・「凜と歩む、根津小」

すがすがしさ、清潔さ、自己への厳しさ、他人への優しさ、居ずまいの正しさ
姿勢の良さ、正義感の強さ、正直さ、素直さ、誇りの高さ、礼儀正しさ、
克己心の高さ、志の高さ

2 本校の教育目標

人間尊重の精神に徹して、情操豊かで実践力のあるたくましい人間の育成を
目指し、次の目標を設定し実践する。

凜と歩む根津小

- 礼儀正しい子
- つよい子
- たくさん勉強する子

(1) 礼儀正しい子の育成

- ・挨拶、言葉遣い、学習ルール等、礼儀や規律正しく生活し学習していく子供たちを
育成する。そのために、根津スタンダードによる指導を全校で統一して行う。

< 具体策 >

- ①居ずまいを正した挨拶・・・朝の挨拶指導 校内での日常の指導
場に応じた挨拶や礼儀作法・・・対応力、瞬発力を鍛える場の設定
地域・保護者との連携で、形式だけの挨拶から心からの挨拶へ

②言葉使いの指導

「はい」「ありがとうございます」

「お願いします」「ごめんなさい」

※根津小が重視する4つの言葉

③根津スタンダード（児童編）の指導
学習・生活規律の定着

(2) つよい子の育成

・自己を大切にし、他者も大切にできる人間尊重の精神に基づき、自己肯定感、自尊感情を高め、我が儘を言わない、我慢強い、相手を思いやる、先を譲れる、つよい心をもった子を育成する。体力の向上についても具体的方策を実践し、心身ともに「つよい子」の育成を図る。

<具体策>

①いじめ、不登校「0」

一人一人の児童を大切にせる教師の育成

友達を思いやる心をもつ児童の育成

毎週1回の生活指導連絡会、各学期1回のアンケート調査による児童理解

今年度はいじめの未然防止・早期発見に重点をおく

②道徳教育を中心とした心の教育

アサーションプログラムの実施

ふわふわ言葉、イトコメガネの実施

地域・保護者への啓発活動

商店会の協力による一行詩や俳句の掲示

③自尊感情を高める取り組み

成功体験を重ねる

分かち合える仲間をふやす

自分をほめる

将来の夢をもつ

得意なことをみつける

④体力の向上

体育や遊びの環境の充実、日常生活の中での体力向上

スポーツテスト（年2回）の実施と活用

振り返りを生かし、自己の運動能力や健康への意識向上を図る

なわとび月間と根津っ子班大縄跳び大会→遊びを通した運動習慣

昨年度開始のマラソン月間の継続と進化

オリンピック・パラリンピック教育推進 年間35時間の実施

(3) たくさん勉強する子の育成

<具体策>

①見通しをもてる授業であること

全教員による「根津スタンダード」の実施

②どの子にも分かる授業であること

「学習のめあて」の明示

I C Tの活用、板書の工夫や絵、図、写真等による視覚化

③ 楽しい授業であること

主体的・意欲的な学習活動を導く授業

友達や教師に認められる場の設定

④ 目的のある授業であること

算数のステップ学習

⑤ かかわり合い、自己表現できる授業であること

言語能力向上の取組

・読書活動の推進

朝読書（毎週月曜、金曜）の実施

・読みかせ（教員、司書、図書委員児童等）

・図書館利用の推進（読書、調べ学習）

・美しい日本語に触れる名文音読（国語のウォーミングアップとして）

・俳句や一行詩の作成、掲示（校舎内や商店街）

⑤ 三つの校内研究の一元化による充実

生活科・総合的な学習の時間

オリンピック・パラリンピック教育

言語能力向上の取組

<別紙参照>

3 今年度の目指す学校像

○120周年の周年行事を通して、児童・保護者・同窓会・新旧PTA・地域が、年代を越え、時間を超えて、根津小学校を中心に結束し、これまでの歴史を振り返り大切にするとともに、今後も地域を支える人材を輩出する学校としての役割をともに果たしていこうとする意識を新たにします。

子供も大人も教師も保護者も、根津小に関わる全ての人が

「ともに育み」「ともに育つ」

4 学校経営の基本方針

「凜と歩み、ともに育み、ともに育つ、開かれた学校」のために

(1) 人権の理念を徹底させ、一人一人の児童を大切にする。

さまざまな特性をもった児童への指導・対応ができる教育を

担任、専科、SC、通級学級、子供家庭支援センターや児童相談所との連携

個人情報管理

・学級・学年だより等への写真掲載（保護者の承諾）

・通級学級との連絡帳

・校舎内掲示物や住所、電話番号等

(2) 学力・体力を向上させるための策をもつ。

カリキュラムマネジメントの力を付ける。

子供に「～したい」と思わせるしかけをつくる。

教師は、子供が「自分でやり遂げた」と満足するかげの力に徹する。

(3) 組織的運営で学校力を向上させる。

研究分科会や学年会を生かし、学習指導力・生活指導力を高める。

校務分掌で、組織貢献力を高める。

- <ねらい>
- ・学校全体の仕組みや仕事の関連を知る（分掌組織図の掲示）
 - ・自己選択肢をつくり、教員自身の良さを組織に生かす。
 - ・毎年検討し、さらなる効率化を図る。
 - ・学年会（分科会）の重視。
 - ・組織的な保護者・地域対応。

キーワードは「気付き」

自ら学び、成長する、提案し改革する

(4) 学校だけでは育てられない、解決できないこと認め、確認し合い、地域の教育力を進んで取り入れていく。

- ・挨拶、礼儀作法、言葉づかい
- ・人権的な配慮、優しさと思いやりの心
（特に、「学びの教室」の立ち上げに関する配慮）
- ・地域と連携した体験活動
（28年度に立ち上げた華道・茶道・日本舞踊・邦楽・飴細工
ペン画・商店会での職業体験等、8つの新事業の継続）
- ・地域行事への参加と郷土愛、地域に貢献する人間性の育成